



元気に歌やお遊戯を披露する子どもたち

幼少年の豊かな感性を育む活動に取り組む「わらべうた・あそびランド」が1月19日、市民文化会館で「第12回わらべうた・あそびランド大会」を開催し、市内の親子など約400名が集まりました。

大会では、下妻市出身の作曲家・故増田賢二先生の歌や、子どもの真っすぐな心で感じた言葉をつづる「口頭詩」を、下妻、きぬ、大宝、大和の4保育園の年長園児80名が元気に発表し、会場からは惜しみない拍手が送られていました。

40歳代の母親は「わらべうたは地味かもしれないけど、昔から歌い継がれてきたもの。今では教わる機会がなくなっているの、このような活動は大切にしてほしい」と話してくれました。

見つけよう 広げよう 子どもたちの世界



気を入れて防犯パトロールに向かいます

県西・県南地区の中学校43校と35クラブの小学生が参加した「第21回下妻市長杯少年剣道大会・第29回村井登杯少年剣道大会」が1月19日、市総合体育館で開催され、少年少女剣士たちが日頃の鍛錬の成果を發揮しました。

開会式では、稲葉市長が「単に勝敗だけにこだわるのではなく、剣道を通して、常に相手を尊重し、礼儀正しく公正な態度で、後輩のお手本となるよう願っています。皆さんの気合いで寒さが吹き飛ばすような熱い戦いを期待します」とエールを送り、下妻剣志会の堤颯太さん（下妻小6年）が選手宣誓を行いました。

熱戦の結果は、中学生の男子団体が若溪学園中学校、女子団体が総和中学校が優勝。小学生の団体が総和剣道クラブ、個人で関陸さん（雅剣志会）が優勝しました。



竹刀の音や元気の良い掛け声が響きます

少年少女剣士596人が熱戦

子どもたちの安心安全を願って 下妻市上下水道組合が青色防犯パトロール

水道や下水道工事業を営む市内25業者で組織される「下妻市上下水道組合」が12月3日、県警察本部から青色防犯パトロールの実施団体として認定を受け、市内全域で青色防犯パトロールを行っています。

組合長の飯島栄さんは「市内の子どもたちを犯罪などから守るために『下妻市上下水道組合として何かできることはないか』と考えていたところ、防犯協会の活動から青色防犯パトロールの存在を知りました。私たちがパトロールを行うことで、少しでも市内の犯罪が減り、安心安全なまちづくりに貢献できれば」と意気込みを話してくれました。



熱く語りかける川崎さん(左)と鈴木先生(右)

心身ともにたくましく健やかな成長を 青少年健全育成市民大会

青少年を育てる市民の会が主催する「青少年健全育成市民大会」が1月26日、千代川公民館で行われ、青少年健全育成に携わる会員や団体、市内小学生など約250名が参加しました。

大会では、アテネ、北京、ロンドン五輪の3大会に競歩日本代表の経験を持つ川崎真裕美さんと、元コーチの鈴木理弘先生による「オリンピックへの道のり」と題した講演が行われ、鈴木先生からは、競歩の経験もない素人からでもオリンピック選手を育てられたことに「一生懸命やるもの同士、信頼が大切」。会場の子どもたちに「自分の先生を信用していますか」と問いかけました。

川崎さんは、赤血球が壊れるスポーツ性貧血と戦いながらも、「必ず夢を持っていた。目標を明確にすると、悩まず進める。今できることを自分でルールをつくり、精一杯やるのが大切」などと熱く語りました。

女子軟式テニス部に所属する千代川中学校2年の外山恭実さんは「部活の先生を信じて、自分も成長したい」と話してくれました。



足の使い方を教わり、真剣に取り組む選手たち

1月26日、スポーツ少年団の交流と親睦を図る「常総ブロック交流会」が開催され、下妻市、結城市、八千代町の14団体から選手や指導者、保護者など282名が集まりました。

ランニング講習会の会場となった下妻中学校グラウンドでは、筑波大学陸上競技部の学生選手5名が講師となり、「速く走りたいですか」との呼びかけに、選手たちは「はい」と元気な歯切れのよい返事で講習会が始まりました。選手たちは、初体験するストレッチやトレーニングに戸惑いながらも、早く走ることをイメージして汗を流していました。

また、砂沼ウォーキングでは、砂沼大橋から北側半周の遊歩道約4キロメートルを、指導者や保護者を含めた参加者全員で歩き、景色や会話を楽しみながら交流を深めました。

スポーツ交流で親睦を深める

昭和30年1月に第1回文化財防火デーが開催されて以来、今年で60回を数える文化財防火デーに伴う「消防訓練」が1月26日、国指定の重要文化財「大宝八幡宮本殿」を有する大宝八幡宮の境内で行われ、下妻消防署や消防団、八幡宮職員、地元住民など約80名が参加しました。

訓練に先立ち、青柳教育長が「代々受け継がれてきた文化財を後世に伝えることが私たちの責務であり、地域の文化財は地域をあげて守ることが肝心」とあいさつし、社務所から出火したことを想定した訓練には、初期消火に地域住民が消火器で初期消火を行い、八幡宮職員は重要物品を運び出しました。

また、強風による拝殿への延焼拡大を想定し消火訓練では消防団が本番さながらに放水し、迅速な消火活動が展開されました。



本番さながらの消火活動

地域の文化財は地域をあげて守る

有料広告欄

有料広告欄

有料広告欄

有料広告欄